

## 〈資料〉

## 映画の内容分析 (3)\*

——映画評論家も映画雑誌読者も共通に好む外国映画とは？——

藤 原 武 弘\*\*

藤原（1989）は、映画評論家と一般の人々の映画嗜好の違いを明らかにするために、1981年度から1988年度までの『キネマ旬報』のベスト・テンの分析を行なった。その結果から読者の評価と評論家の評価が一致しない外国映画一覧を創めて明らかにした。また藤原（2005）は1990年度から2003年度までのデータ、更に藤原（2011）は1955年度から2010年度のほぼ半世紀にわたるデータで同様の分析を行なった。分析の手順は以下のごとくである。キネマ旬報の読者のベスト20には入っているが、評論家のベスト20には登場しない映画、そして逆に、評論家のベスト20には入っているが、読者のベスト20には登場しない映画が何であるのかを示した。前者を筆者は、「読者偏愛」の映画、後者を「評論家偏愛」の映画と便宜的に呼んでいる。ただ1955年から1971年までは、男女別々に集計が行なわれていたこと、そして選考委員の数が少ないという問題もあり、ベスト20ではなくベスト10で集計・分析を行なった。

上述した藤原（2011、2013）の研究の主眼は、評論家と一般読者の間で映画への嗜好の差異・乖離を明らかにすることであったが、本研究においては映画評論家と映画雑誌読者の嗜好の共通な部分に注目する。既にある年度に限ってではあるが、両者の共通性に注目した研究も存在する。すなわち、1981年度から1988年度に関しては藤原（1989）、2001年度から2003年度に関しては藤原（2005）が既に分析結果について報告してきた。今回の報告では外国映画を対象として、評論家偏愛映画、読者偏愛映画の分析で行なってきたよう

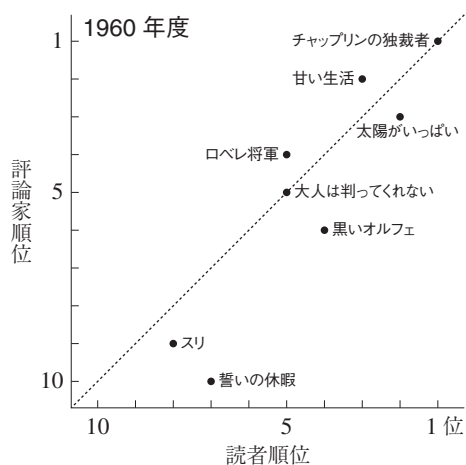
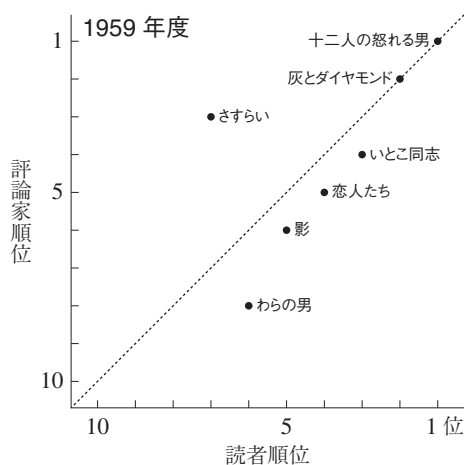
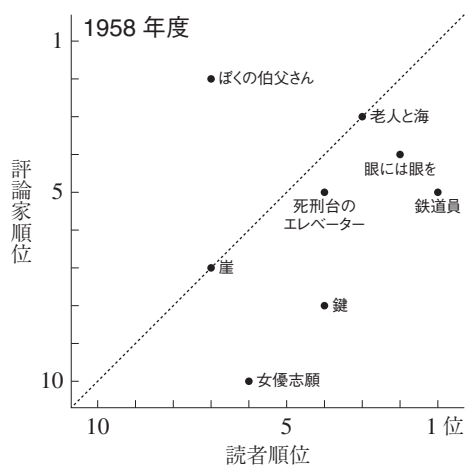
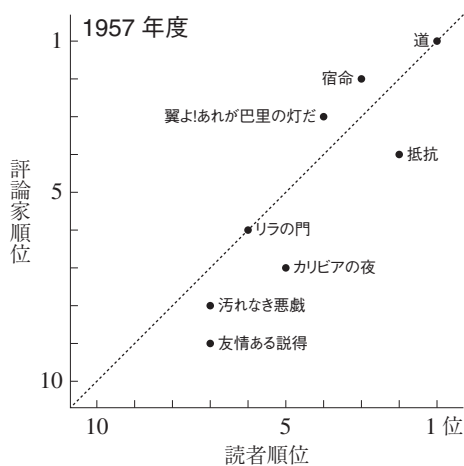
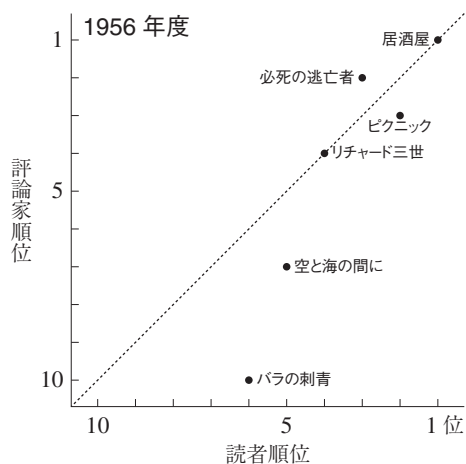
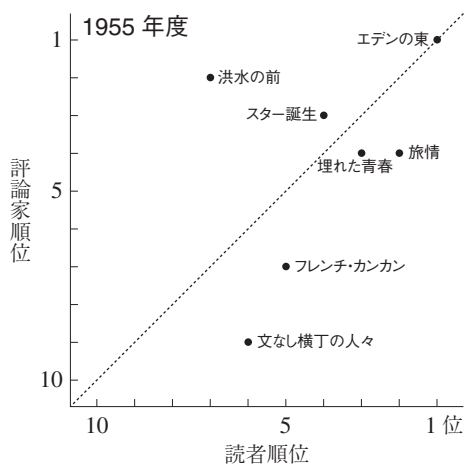
に、1955年度から1971年度までは『キネマ旬報』ベスト・テンで共通に上位10位までに入る映画、1971年度から2010年度までは共通に上位20位までに入る映画をカウントした。図はその結果を図示したものである。横軸が映画雑誌読者の順位、縦軸が映画評論家の順位が2次元の直交座標軸上に示されている。この図の45度の直線にある映画は、評論家の評価とキネマ旬報の読者の順位が一致する映画である。この直線から離れるに従い、両者に乖離が生じることを意味する。両者の評価にズレが少ない映画群は、鑑賞者のキャリア・レベルとは無関係に高い評価をうけていることから、良好でバランスの取れた映画と言えるかもしれない。微妙な違いだが、45度の直線から下方向に位置している映画は、読者が相対的に高い評価を下している映画で、読者好みの映画である。逆に、45度の直線から上方向に位置している映画は、評論家が相対的に高い評価を下している映画で、評論家好みの映画ということになる。とはいえ今回の報告は、両者の差異と言うよりは、共通性に注目して分析を行なった結果の報告である。

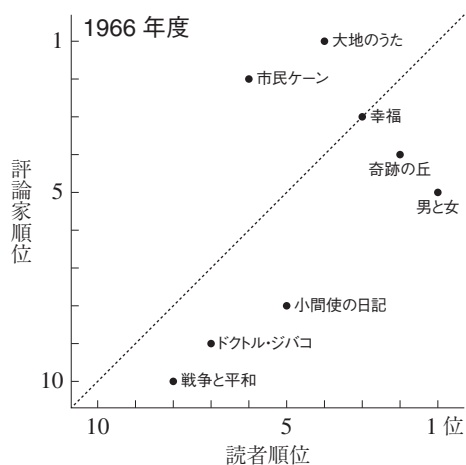
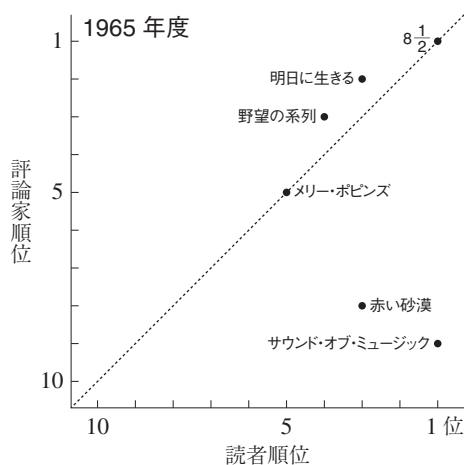
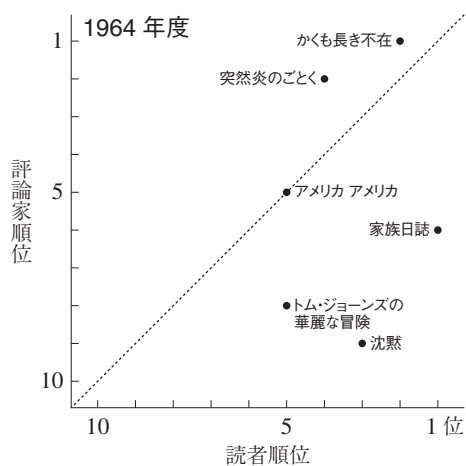
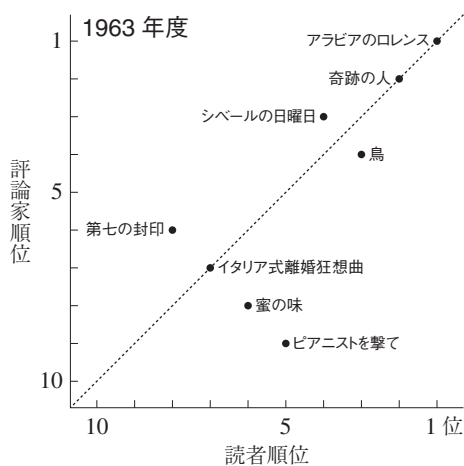
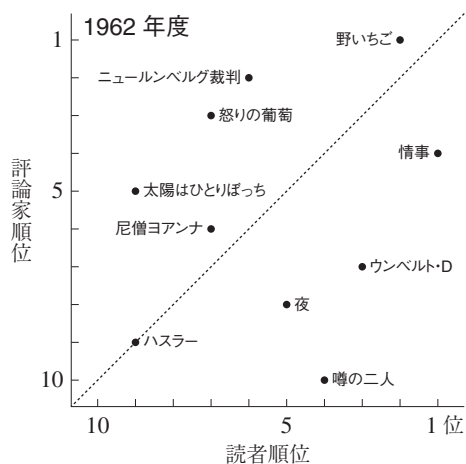
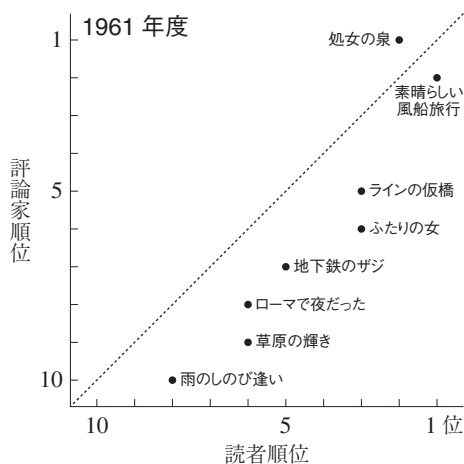
両者の共通性を示す年度別の一致率は図2に示されている。1955年度から2010年度までの年度全部を通しての平均一致率を計算すると69%である。なお1955年度から1971年度までの一致率は74%、1972年度から2010年度までの一致率は68%であるので、この違いは上位10位までと上位20位までの方法上の差異を反映しているかもしれない。

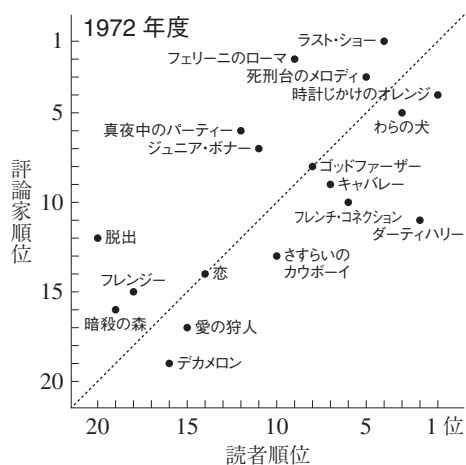
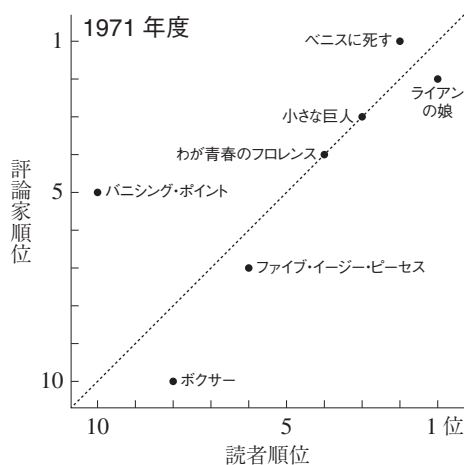
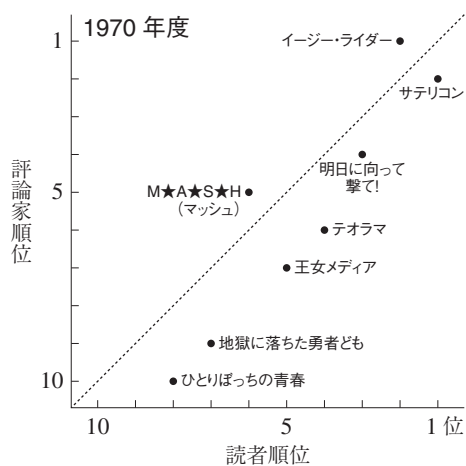
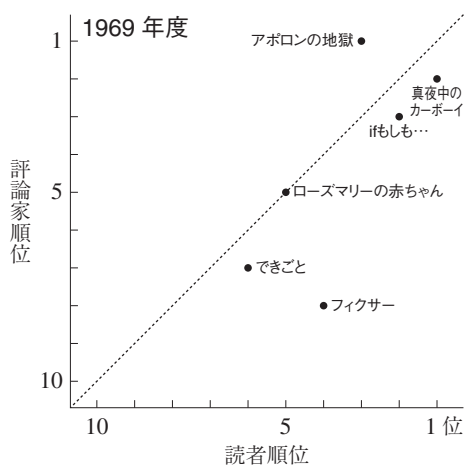
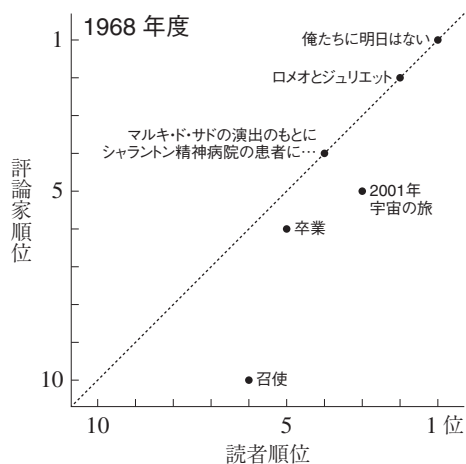
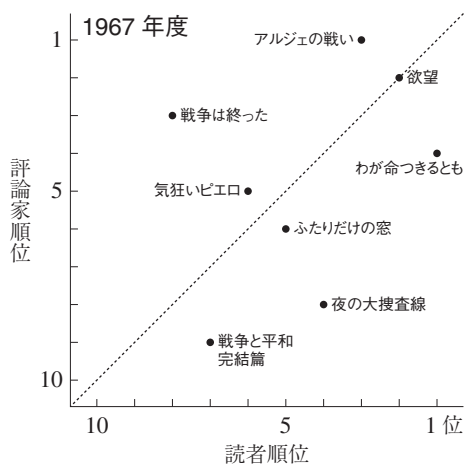
また読者ならびに評論家偏愛映画も含めたベン

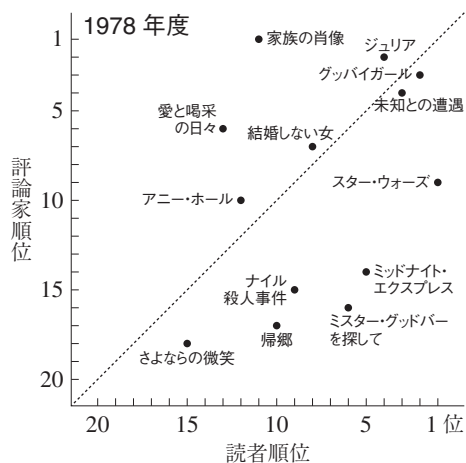
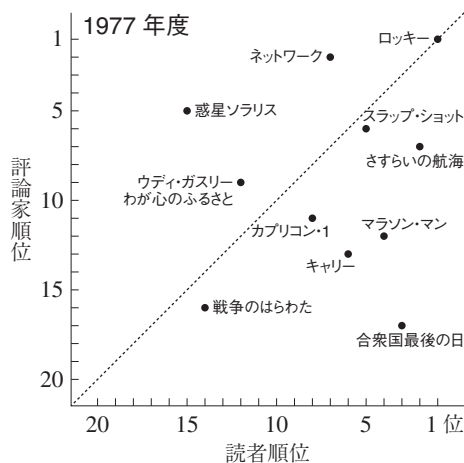
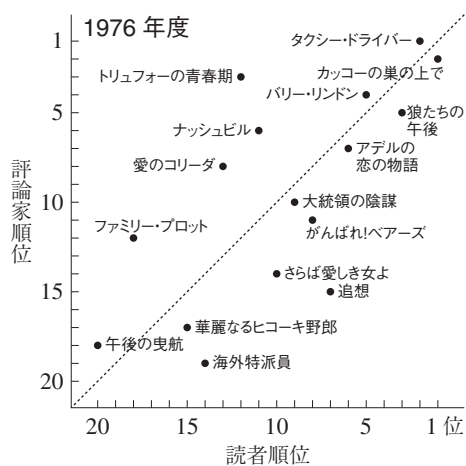
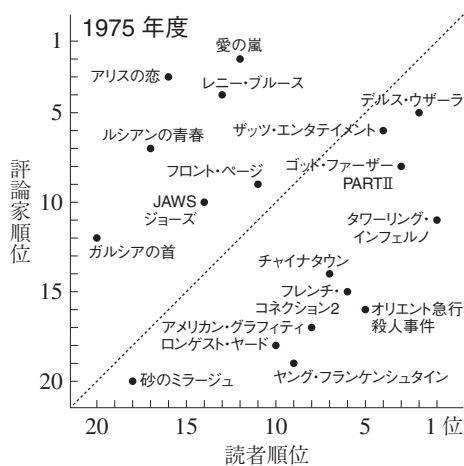
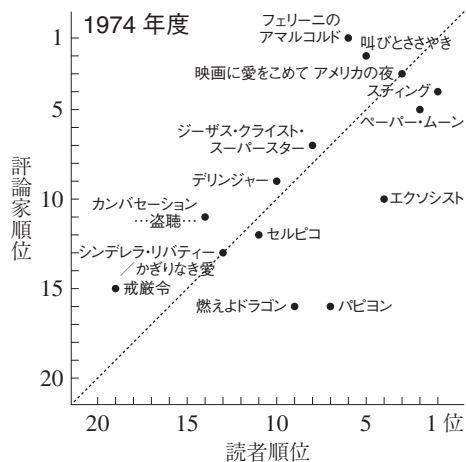
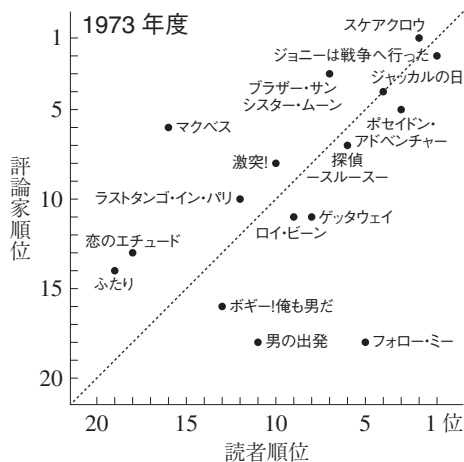
\*キーワード：映画嗜好、映画評論家、映画雑誌読者

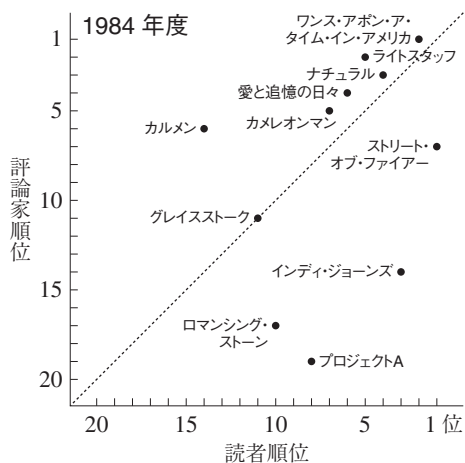
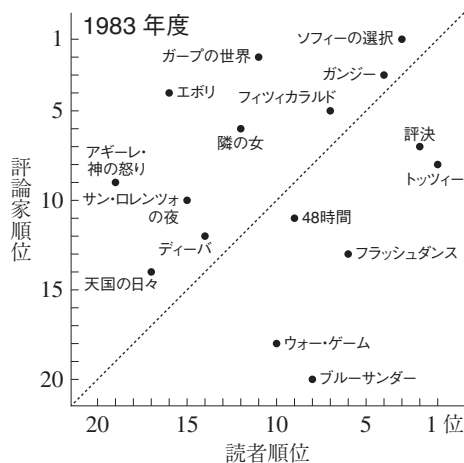
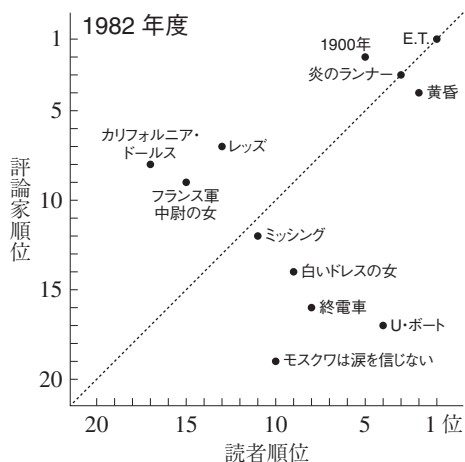
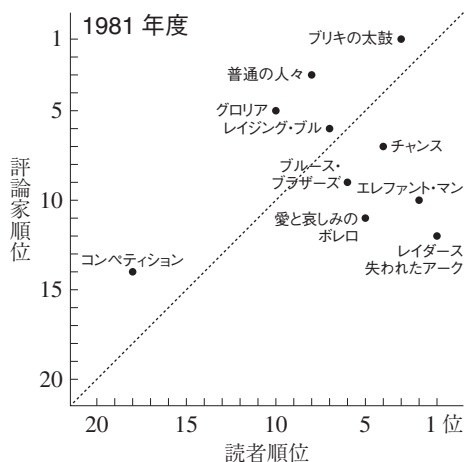
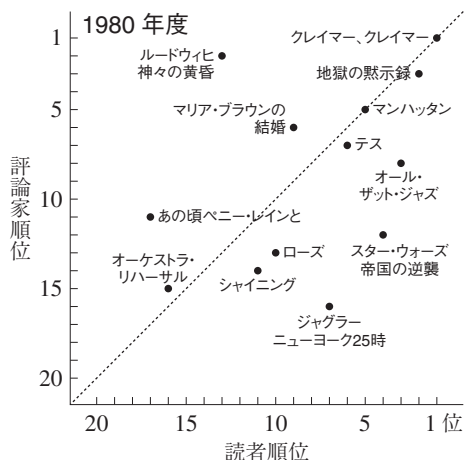
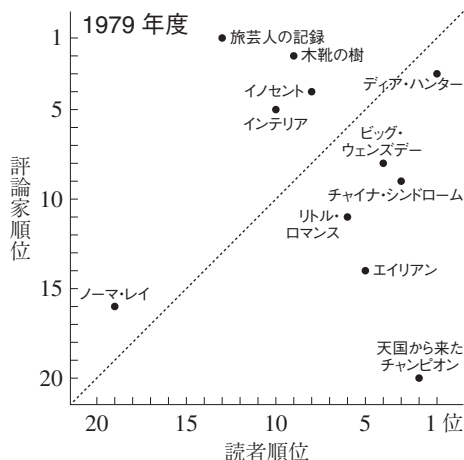
\*\*関西学院大学社会学部教授

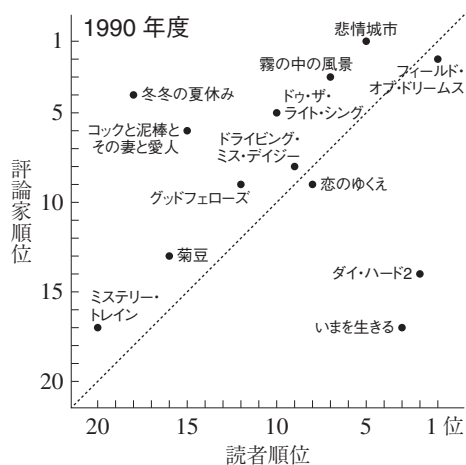
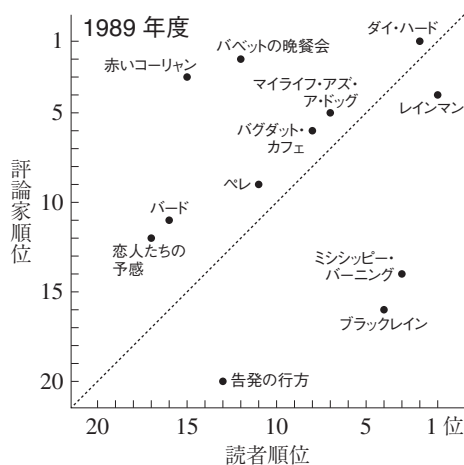
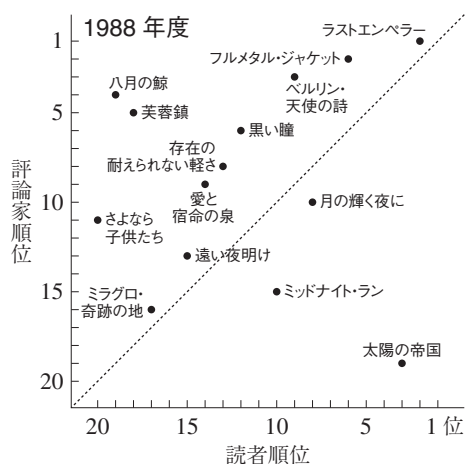
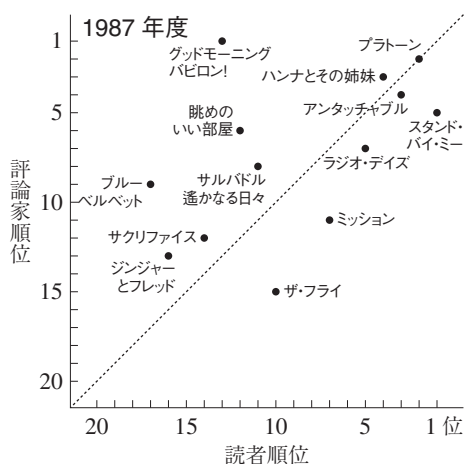
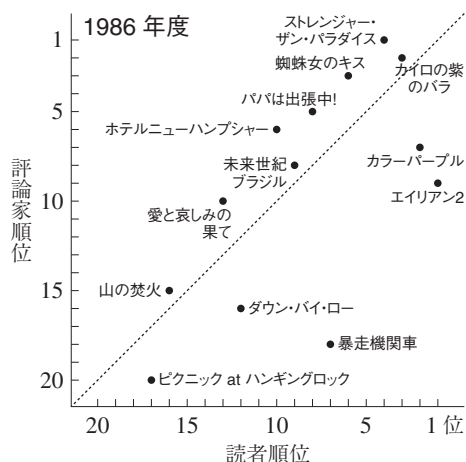
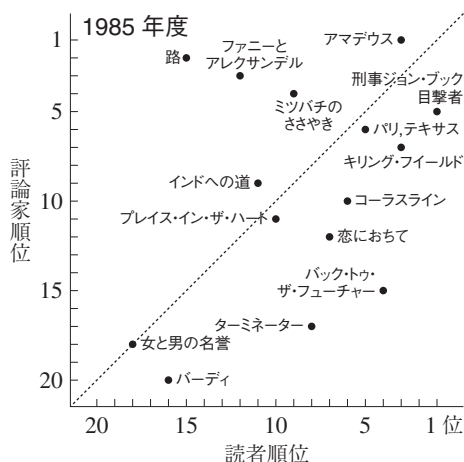


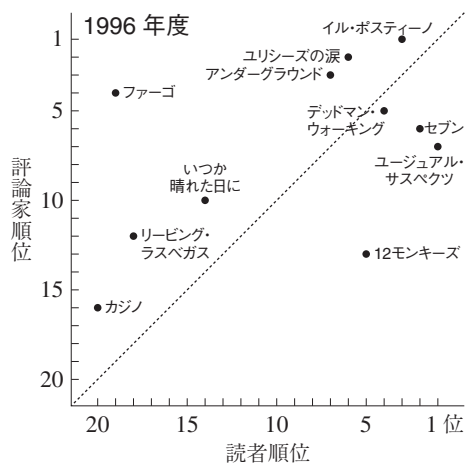
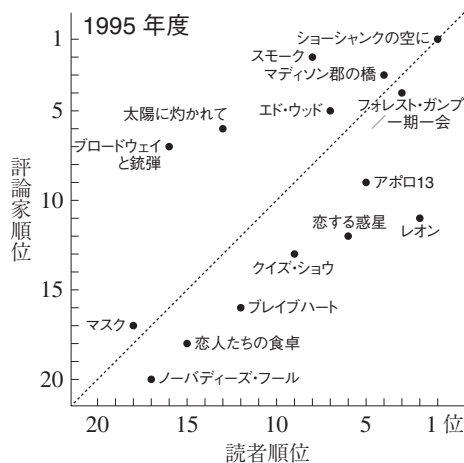
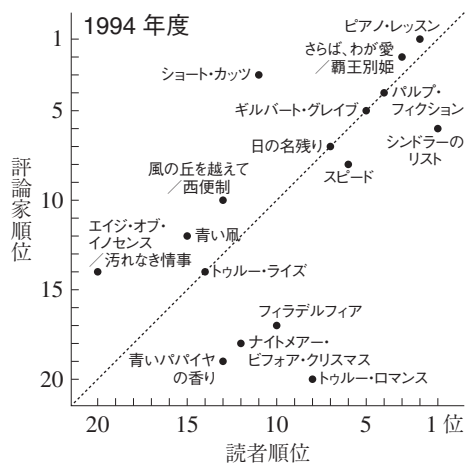
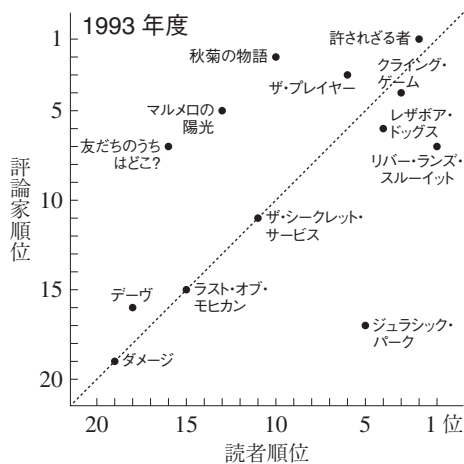
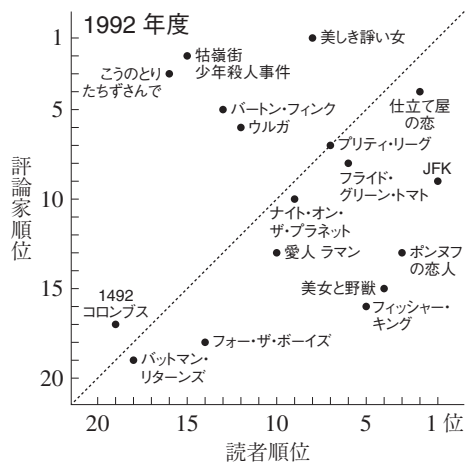
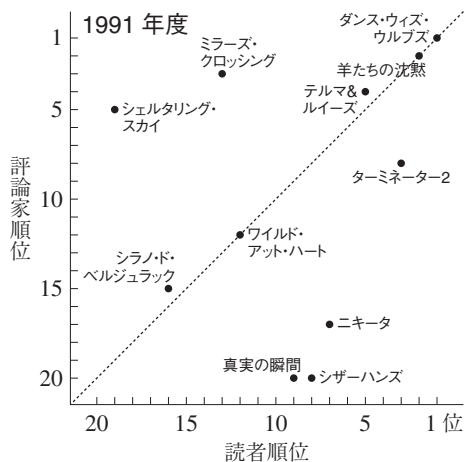




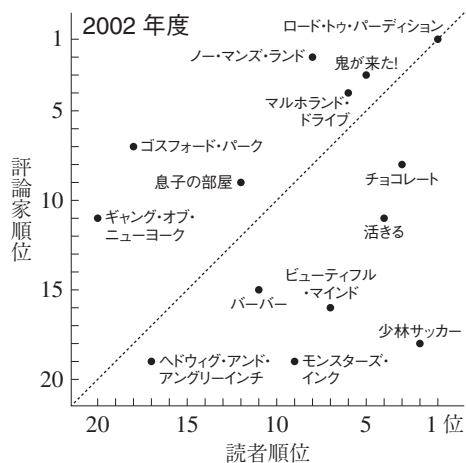
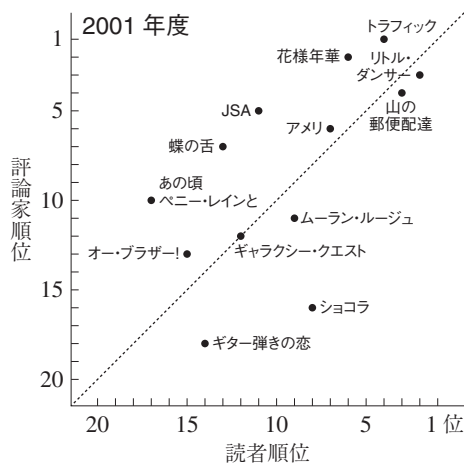
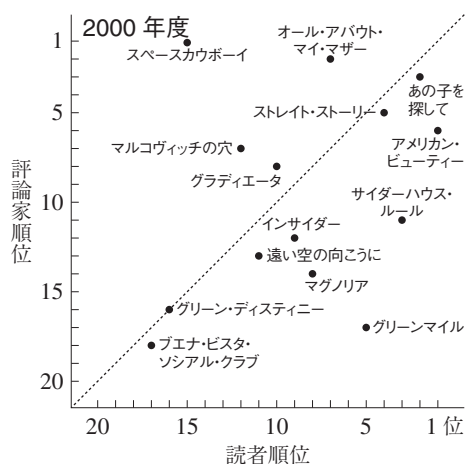
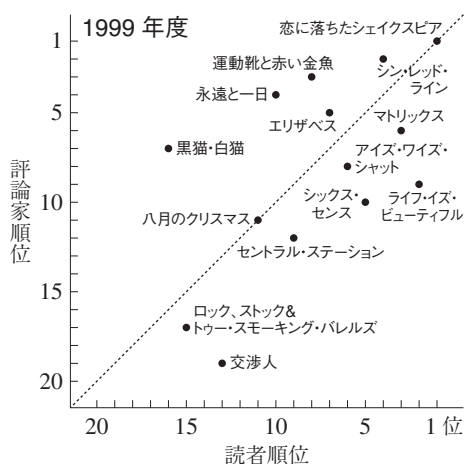
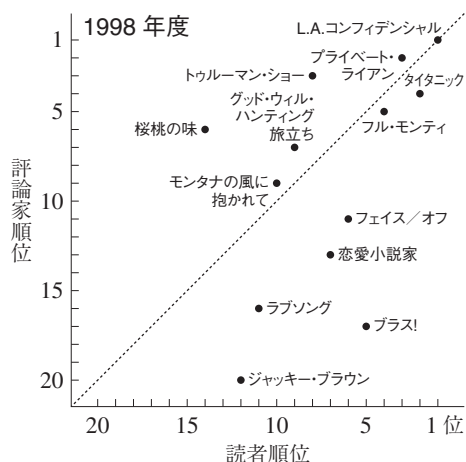
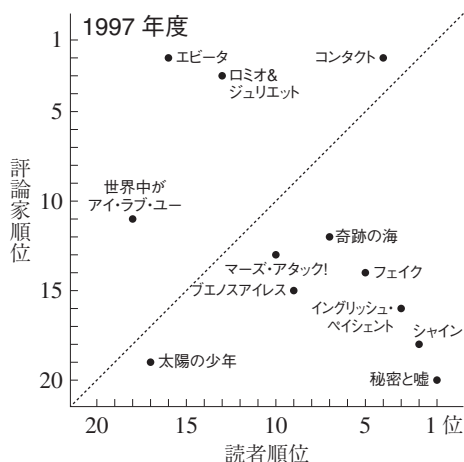


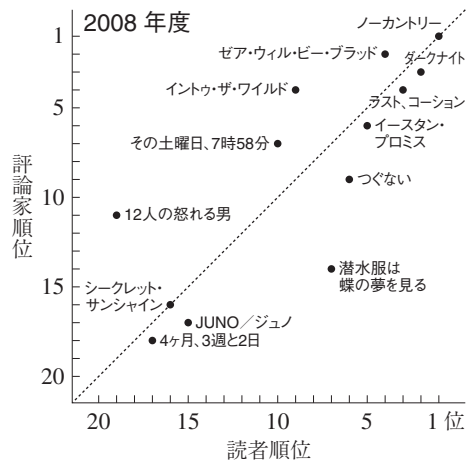
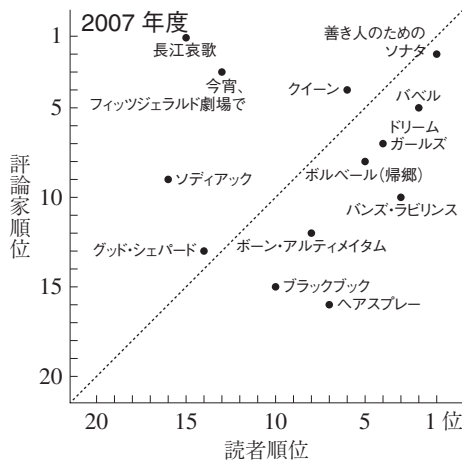
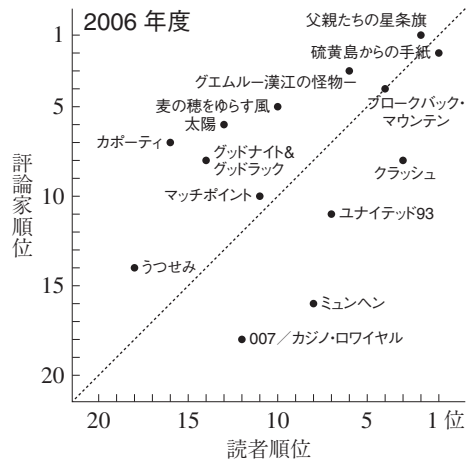
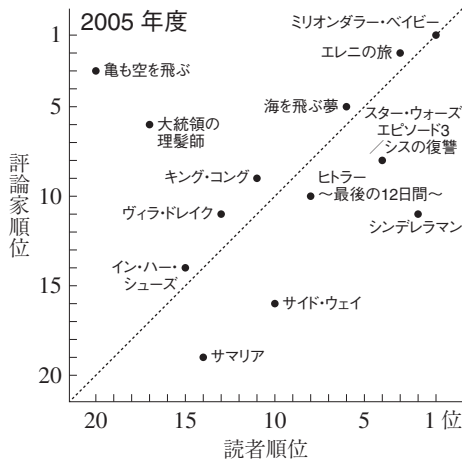
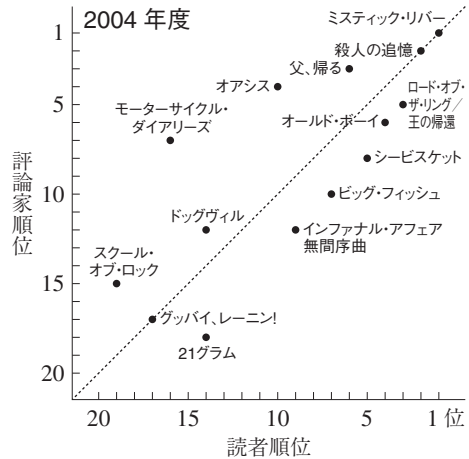
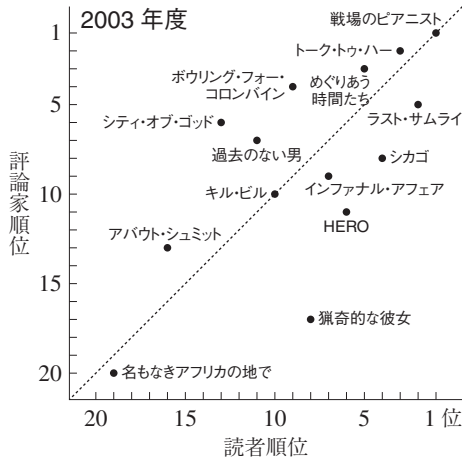












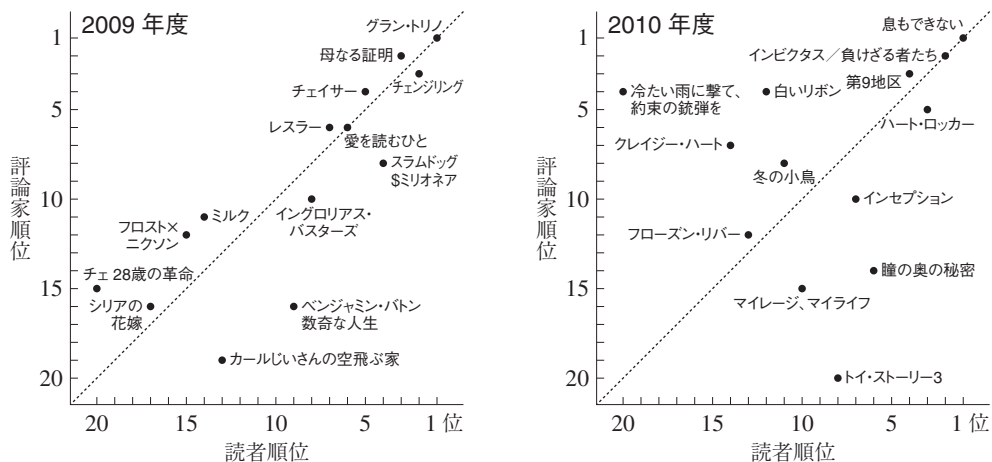


図1 2次元座標軸上にプロットされた評論家の順位と読者の順位

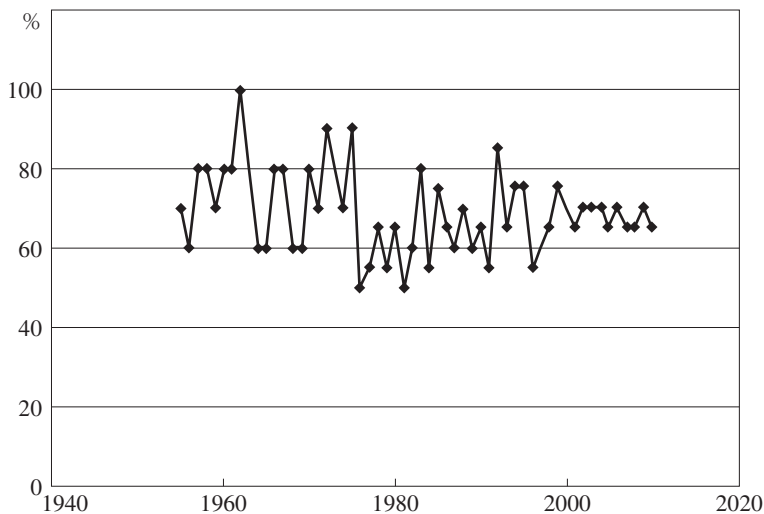


図2 年度別に見た一致率の推移

図を作成すると、図3に示したように、両者共通に高い評価を受ける映画は52%、評論家偏愛映画24%、読者偏愛映画24%となる。なお1955年度から1971年度までの両者共通に高い評価を受ける映画は57%、評論家偏愛映画20%、読者偏愛映画22%となる。1972年度から2010年度まで両者共通に高い評価を受ける映画は51%、評論家偏愛映画25%、読者偏愛映画24%となる。最近『死ぬまでに観たい映画1001本』という書物が出版された (Schneider, S. J., 2011)。どのような手続きで1001本の映画が選択されたのかは、書物の中には明確には書かれていないが、

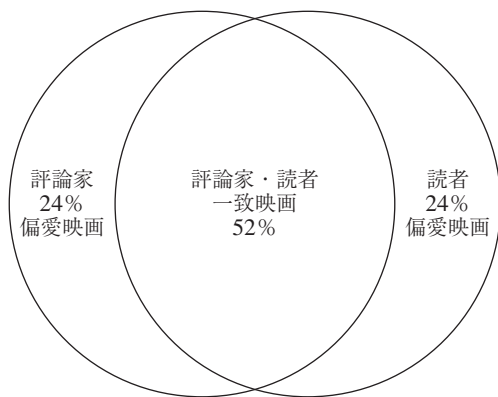


図3 一致映画と不一致映画の割合

一致率に基づく筆者の映画選択方法の方が優れているというのは過信評価であろうか。筆者のお勧め映画は、評論家の評価と読者の評価が一致する映画である。それを筆者は『天国まで DVD で持っていきたい外国映画編 665 本』と勝手に名づけている。次回は日本映画編であることを予告しておく。

#### 引用文献

藤原武弘 1989 シネマサイコー映画心理学 福村出版

藤原武弘 2005 第7章 映画の心理学－映像コミュニケーションの魅力 子安増生（編著）芸術心理学の新しいかたち 誠信書房

藤原武弘 2011 映画の内容分析（1）関西学院大学社会学部紀要、第 113 号、69-77.

藤原武弘 2013 映画の内容分析（2）関西学院大学社会学部紀要、第 1161 号、135-155.

『キネマ旬報増刊 映画 40 年 全記録』1986 キネマ旬報社

『キネマ旬報ベスト・テン 80 回全史』2007 キネマ旬報社

『キネマ旬報ベスト・テン 80 回全史 1924→2011』2012 キネマ旬報社

Schneider, S. J. (Ed.) 2011 1001 movies : You must see before you die. A Quintessence Book. (野間けい子 (訳) 2011 改訂新版 死ぬまでに観たい映画 1001 本 ネコ・パブリッシング)

## Content Analysis of Films (3)

——Similarity of foreign film preferences between film critics and film journal readers——

### ABSTRACT

This study clarifies communalities and similarities in foreign film preferences between film critics and readers of the film journal *Kinema Junpo* using ranking data from the film journal from 1955 to 2010. Films that commonly received rankings lower than 10 or 20 by film critics and readers alike were defined as films with high agreement. The results indicated that the average agreement ratio was 69%.

**Key Words:** film preference, film critics, film journal readers